

# いいまち 議会だより

防災会議条例改正

女性の視点と意見を …… ②

1億4000万円積立 …… ③

9人が町政を問う …… ⑤ ▶▶ 13

被災地の今 ～栄村～ …… 14

町民の声を議会に

活躍中!「おはなしだいすき」 …… 16

第58号 平成24年7月31日

発行：長野県飯島町議会

「気持ちいいよ(千人塚城ヶ池)」

# 防災会議条例改正 委員定数大幅増へ

## 20人以内を40人以内に

〈女性の視点や意見を取り入れよ〉

平成24年6月定例会は、8日から18日の11日間の会期で開催。町提案の補正予算7件、条例6件、人事1件、その他3件を審査し全員一致で承認・可決しました。人事は人権擁護委員の任期満了に伴う候補者の推薦で、七久保在住の上原保氏うえはらたもつを同意し可決しました。

防災会議条例の一部改正は、広く意見を求めるために委員定数増が提案され、可決しました。なお、審査では「女性の採用をより多く」「障がい者の立場の人を入れるべき」などの意見が出されました。

請願・陳情は総務産業委員会1件、社会文教委員会2件を付託し、委員会も本会議も採択・可決しました。また一般質問には9人が立ち、町政をただしました。

### 補正予算・条例・人事・その他・請願陳情の結果

件名	即決	委員会結論	本会議結論
人権擁護委員候補者の推薦	可決11-0		
飯島町税条例の一部改正に係る専決処分の承認	専決		承認11-0
飯島町国民健康保険税条例の一部改正に係る専決処分の承認	専決		承認11-0
平成23年度飯島町一般会計補正予算(第7号)	専決		承認11-0
平成23年度飯島町国民健康保険特別会計補正予算(第4号)	専決		承認11-0
平成23年度飯島町後期高齢者医療特別会計補正予算(第4号)	専決		承認11-0
平成23年度飯島町介護保険特別会計補正予算(第4号)	専決		承認11-0
平成23年度飯島町公共下水道事業特別会計補正予算(第4号)	専決		承認11-0
平成23年度飯島町農業集落排水事業特別会計補正予算(第4号)	専決		承認11-0
外国人住民に係る住民基本台帳制度への移行等に伴う関係条例	可決11-0		
飯島町手数料徴収条例の一部改正	可決11-0		
飯島町防災会議条例の一部改正	可決11-0		
飯島町基金条例の一部改正	可決11-0		
平成24年度飯島町一般会計補正予算(第1号)	可決11-0		
飯島町道路線の認定	可決11-0		
飯島町道路線の廃止	可決11-0		
飯島町道路線の変更	可決11-0		
TPP(環太平洋連携協定)への参加判断に関する要請書	→	採択4-1	可決10-1
「義務教育費国庫負担制度」の堅持を求める請願書	→	採択5-0	可決11-0
新教職員定数改善計画の実施と、教育予算の増額を求める意見書提出に関する請願書	→	採択5-0	可決11-0

## 23年度一般会計補正予算

昨年度に続き基金へ

1億4000万円積み立て

補正総額

8488万円

計47億3618万円

主な使いだ

★財政調整基金

5000万円

★減債基金へ

5000万円

★公共施設等整備基金

4000万円

など

●町税

600万円

●地方交付税

8948万円

●諸収入

813万円

など

●歳入・歳出ともに減額

補正あり。

繰越事業1億523万円  
24年度で施工

★高齢者支えあい拠点

施設建設事業(新田)

3271万円

★農業用排水工事

660万円

★林道横根山線改良工

事 1222万円

★ガラス飛散防止フ

ィルム貼付工事

(夏休み予定)

飯島小学校

2230万円

七久保小学校

1170万円

飯島中学校

1970万円

## 23年度特別会計補正予算

国民健康保険

補正総額

2511万円

計9億5050万円

主な収入源

●県・国庫支出金

2870万円

●共同事業交付金・繰入金

金など

減額359万円

主な使いだ

★基金積立金

5000万円

★保険給付費

減額3074万円

後期高齢者医療

補正総額

減額311万円

計 1億300万円

★事業確定による広域

連合給付金

減額311万円

## 24年度 一般会計補正予算

介護保険

補正総額

減額2018万円

計9億4524万円

★事業確定による保険

給付費

減額2018万円

公共下水道

補正総額

減額2480万円

計3億6078万円

事業確定による

農業集落排水

補正総額

減額110万円

計2億6046万円

事業確定による

放射線測定器を  
新たに購入

補正総額

1796万円

計42億3996万円

主な収入源

●県支出金 566万円

●諸収入 1170万円

など

主な使いだ

★放射線測定器購入

(事業費組み替え)

放射線量表示板を返却

して) 300万円

★日曾利耕地の備品整

備 250万円

(緊急雇用)

★定住促進事業

139万円

★保健体育総務費

147万円

★介護保険事業

118万円

★循環バス運行事業

111万円

など



購入する放射線測定器

## 総務産業委員会

### TPPを再度討論

陳情 国へ  
 TPP（環太平洋連携協定）への参加判断に関する要請書

賛成 4 反対 1

上伊那農政対策委員会委員長・上伊那農業協同組合代表理事組合長の宮下勝義氏から提出され、上伊那農協飯島支所の村澤支所長を参考人として出席を求め、内容を審査しました。

#### 陳情の内容

要請項目は、

① 日米首脳会議で野田首相が拙速なTPP交渉参加入りを表明しないこと。

② 事前協議に臨む政府の統一方針が確立されるまでは関係国との事前協議は中断すること。

③ 国民的議論に資する責任ある正確な情報開示を行うこと。

④ 公正・公平な運営による国民的議論の場を設定すること。

⑤ 国益に即した具体的な判断基準を政府の統一見解として明示すること。  
 であり、政府に強くはたらきかけるもの。

#### 審査での意見

反対

TPPもFTAも同様の自由貿易である。

日本の主張を通じての自由貿易であり、TPPはアメリカの主導権として伝わっているが、どこの国ともすべきだ。

賛成

FTAでTPP参加国も交渉している。

賛成

TPPは例外なき関税の撤廃であり、国の主張が通らない。

交渉経過に対する責任ある情報開示が行われていない。

賛成

農業や環境を守るため、TPP交渉に参加すべきではない。

## 社会文教委員会

### 「義務教育は国の責任」を確認

請願 国へ  
 義務教育国庫負担制度の堅持を求めらる請願

賛成 5 反対 0

長野県上伊那郡飯島町公立学校教職員組合代表の藤原健吾氏から提出され、参考人として同氏に出席を求め、内容を審査しました。（以下1件も同様）

#### 審査での意見

賛成

1985年から国庫負担が減り続けている。義務教育は国の責任で行うものであり、自治体により教育環境に格差ができてはならない。

#### 審査での意見

んだ教職員定数改善計画の着実な実現を求めるもの。

【紹介議員】 坂本紀子

請願 国へ

新教職員定数改善計画の実施と、教育予算の増額を求める意見書提出に関する請願

賛成 5 反対 0

請願の内容

どの子にもゆきとどいた教育をするために、標準定数法改正による35人学級の拡大、教職員定数増などを盛り込

国が教職員の定数を増やせば県の負担が軽くなる。安定した教育が受けられるように、早期の改善を望む。

質問  
地域防災計画見直し案は  
理解が得られたか

併答  
趣旨も含め理解して  
もらったと思う



久保島 巖

問 今年度開催のまちづくり懇談会は目的・趣旨をどう設定したか。

町長 「安全安心のまちづくり、地域防災を考へよう」のテーマに絞り、防災計画見直しに反映すべく意見を聞くことを目的とした。

問 見直し案の趣旨や目的は参加者に理解が得られたか。

町長 理解を押しつけたわけではない。見直しに対する趣旨も含め理解をしてもら

訓練をしていきたい。

質問  
わかりやすい  
予算書を

問 町の財政状況などを分かりやすく町民に知らせる必要がある。以前にも提案した「中学生でもわかる予算書・決算書」の作成・配布を提案するが。

町長 全国的には予算書の付属書として発行しているところがいくつかあるようだ。当町は広報紙をはじめ、CEKやインターネットで周知している。学校教育や出前講座で希望がある時は資料を提供している。説明概要書を別につくることは考えていない。

問 インターネットの威力は軽視できない。ホームページ・フェイスブックやブログはもちろんだが、ユーチューブで予算説明を配信しては。

町長 できるだけインターネットを含めた情報公開に努めたい。総務課長 今年度から定住促進室でフェイスブック・ツイッター・ブログも始めた。

例年の防災訓練はマンネリ化が否めない。今年度9月2日の訓練は今までと変えた形で実施する必要がある。次年度以降も現実的な

町長 できるだけインターネットを含めた情報公開に努めたい。

質問  
セーフコミュニティ  
認証を

問 地域防災のために、世界保健機構が推進するセーフコミュニティ認証を目指すべきだが。

町長 安全安心なまちづくりの趣旨は理解できる。しかし費用もかかるので、現在の取り組みを進めていく。

問 安全安心なまちづくりの趣旨は理解できる。しかし費用もかかるので、現在の取り組みを進めていく。

質問  
公民連携手法の  
取り組みを

問 駒ヶ根市では、上下水道事業を民間に業務委託する検討を始めた。料金徴収などの窓口業務から検針まで全てを委託する方向だ。

町長 市民生活に密着する基本的な部分は、行政自ら責任を持つことも安全安心の点から重要と考える。

町長 すでに業務の一部は民間委託している。広い意味では、これも公民連携手法だ。

町長 町も方向としては、公民連携を進めていく考えだ。



民間委託の飯島下水処理場

質問

伊南バイパスの全線開通見通しは

答弁

28年度以降

1日も早い開通を目指す



北沢 正文

問 中央道が通行止めになった場合などの非常事態に際し、交通誘導を予め関係機関と協議しておく必要があるのでは。

問 町内道路の役割区分の見直しを行うべきでは。

町長 有事に対応できるように検討している。

建設水道課長 国道・県道を含め町道の交通の流れが大きく変わろうとしている。見直しは必要なので、財源を見ながら計画的に進める。

問 町内からインターチェンジへの時間短縮対応を考える必要があるのでは。

問 5カ年計画に、未整備都市計画路線の見直しと検証が挙げられているが。

町長 町内にスマートインターを作ることは難しい。駒ヶ岳サービスエリアへの設置の話が起れば、実現に向けて努力していく。

建設水道課長 県が見直し手法を検討し、一部の市町村では始まっている。当町も動向を見ながら進めていく。

問 当町は、国道153号全線を国直轄指定区間に編入することを要望しているが。

町長 関係市町村挙げて運動を進めている。災害時の緊急道路、中央道の代替機能、中央リニアへのアクセス道路として重要度が増しており国直轄管理になることを期待している。

問 伊南バイパスの全線開通の見通しは。

町長 飯島工区5キロはできれば年内、南割

町長 飯島工区5キロはできれば年内、南割

町長 現在の7路線は引き続き県で管理をお願いし、新たに広域農道全線を県道とするよう要望しており、県も前向きに検討している。

問 県道の課題は何か。

町長 必要と思っている。今の道路構想を修正する方法を進めたい。

問 新しい国道・県道を取り入れた町の幹線道路網計画の策定が必要では。

町長 必要と思っている。今の道路構想を修正する方法を進めたい。

問 今年度の節電をどのように実施するか

町長 平成23年度の実績は前年度比8・7%減少することができた。今年度は目標数値を定めて実施する。

問 町内への呼びかけをどのように行うのか。

町長 中電管内は22年比較で5%の節電要請があった。当町は、LED化で3・8%減の実績があるが、さらに十分啓発しお願ひしていく。

問 太陽熱利用の促進を図ってはどうか。

町長 太陽熱利用の給湯施設の設置補助を、次年度に向けて前向きに検討したい。



竜東線とバイパスの工事が進む(田切地区)

健康への意識アップに「健康ポイント制度」を

町民の健康維持を考え、研究課題に



中村 明美

**問** 生涯現役で暮せるためには、若い時から健康管理や病氣予防への意識が重要。そこで「健康ポイント制度」を提案する。箕輪町では、高齢者が仕事やボランティア活動などを行うことでポイントが得られる。兵庫県豊岡市では、ウオーキングや健康事業・介護事業への参加することでポイントを得られる。このポイントは、町

**内施設や協賛店で利用できる**ので、町内の活性化にも繋がる。また福祉・教育基金へ寄付もできる。

**当町でも、ポイント制度の導入を検討しては。**

**町長** ポイント制度が、健康で豊かな生活に繋がるひとつの方法だと思ふ。ただ実施には、担当職員配置・取り組む自助努力の問題・経費などハードルが高い部分もある。町の独自

施策の中で、町民の健康維持を考えながらポイント制を検証し、研究課題と考えている。

**問** 今後、高齢者が暮らしやすい環境を考慮し、住宅設計画を進めるべきでは。

**町長** 公営住宅のリニューアル時には、一定のスペースに高齢者向け機能の確保は必要。高齢化の中で必ず需要が出ると思う。その辺も見極めながら公営住宅の施策を進めたい。

循環バス事業の改善を

**問** 循環バス運行事業は5年になるうとして

いる。病院線は利用者から喜ばれている。しかし問題点も多く

町民の声には

- ①デマンドは申し込みが面倒。受付の時間制限があり都合悪い。
- ②ステップが高く乗り降りが困難。
- ③南北線が不便。
- ④料金が高い。

⑤バスで行く商店が少ない。

⑥バスを小型化すべき。

⑦バス停が少ない。

⑧現段階での行政の課題は。

**町長** 東西線は、地場産業施設など地域商業施設への路線延長や通勤・通学時間帯への対応が必要。エリアの拡大も一部検討。153

パイパスの供用開始による見直し。中川村との相互乗り入れの必要性。

今後1年の内に十分検討する。

**総務課長** 大型バスには低床ステップがあり、運転手判断で対応している。15人乗りは未設置。早急な改造は予算的に無理。今後検討したい。

**問** 改善策に

- ①町内線を200円から100円に下げる。
- ②月1000円定期券。
- ③月1500円の中学

生定期券を。

④タクシー券交付は所得制限・バス利用が困難な人のみに。その残額分を循環バス事業に移行する。

⑤75歳以上を無料。

⑥今後の調査項目に、年間家族券の需要を加えては。例えば、家族券8000円なら月6700円で乗り放題。など考えられる。利便性と利用率向上に向け検討を。

**総務課長** 当時200円が一番よいとされ、これを基本としたい。今後の調査結果や提案内容も含め検討をしていきたい。

**問** 身近な循環バス事業なのに住民理解が進まない。委託内容を公表すべきでは。

**町長** 一層の理解と、利用を図る意味からも今後、十分検討し公表したい。



箕輪町で発行されている「元気ポイント手帳」

質問  
「ふれあいのまちづくりは  
自治基本条例の制定で

弁答  
前期基本計画5年間の  
中で  
制定を目指す



堀内 克美

らいであれば定数減を  
考えては。

また出席率の高い団  
員の処遇改善や自衛隊  
のようにOB団員の登  
録制など、現役団員と  
合わせた団員確保の検  
討を。

町長 同じ団員が必ず  
欠席するとは考えられ  
ないので、いざという  
ときに備えると定数削  
減はできない。団員確  
保はこの市町村でも  
苦労している。団員年  
齢の引き上げや女性団  
員の増、提案のOB団  
員の確保を検討したい。  
また消火栓の操作な  
ど、昼間の火災には女  
性の活躍も期待したい。

問 現在、自治会未加  
入が385世帯、11・  
9%ある。地域で情報  
を共有していないと災  
害など緊急時に対応で  
きない。

町長 未加入世帯対策  
は区や耕地とも連携し  
ながら対応してきてい  
るが、厳しい面もある。  
災害時など考ええると  
100%加入が望まし  
い。

未加入世帯には「耕  
地」の呼称に疑問を持  
つ人も多いと聞く。呼  
称変更を町が主体性を  
持って進めてほしい。  
また、親との世帯分  
離により未加入扱いと  
なっている世帯も多く  
ある。未加入世帯の確  
認も含めた対応を。

町長 呼称変更は、地域の  
自主性でお願いしてき  
ている。町としても2  
つの呼称があるとやり  
づらい面もある。区長  
や耕地総代と連携して  
対応したい。

問 平成23年度は第5  
次総合計画スタートの  
年である。前期基本計  
画1年目の評価は。

町長 今後のテーマを絞って  
対応したい。

また今年のみちづくり  
懇談会はテーマを防  
災問題に絞り、大きな  
成果があったと思う。  
次年度以降の対応は。

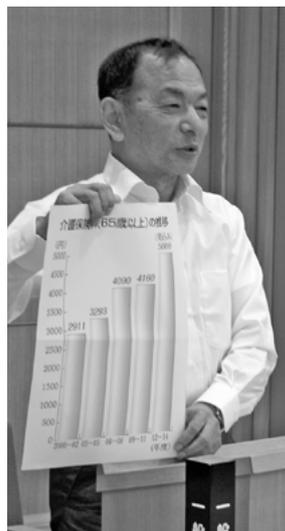
町長 8つの基本政策、  
4つのプロジェクトが  
スタートした。まちづ  
くり懇談会は、テーマ  
を絞ったことで町民と  
の意見交換が進んだ。  
今後もテーマを絞って  
対応したい。

これからのまちづくり



質問  
新ごみ処理施設の  
溶融方式採用は精査したか

答弁  
専門家を交えた検討結果だ



浜田 稔

**問** 町のごみ処理第二期計画によれば、町民1人当たりのごみ排出量を平成35年までに5%減らす目標となっている。一方、全国平均ではごみの排出量が年率3%で減り続けている。当町はより高い目標を掲げるべきでは。

**町長** 平成25年度に新たな削減目標を策定するので、根本的に検討していく。

**問** 昨年、上伊那のごみ処理施設を視察して、

生ごみを燃やしている光景にショックを受けた。水分を半減すれば炉の規模は3割小型化できるといふ試算もある。

当町のごみ処理工動計画に、集合住宅に大型の生ごみ処理機を設置する記述があるが、実施状況は。

また各市町村のごみ処理費用負担金の算出には、可燃ごみに含まれる生ごみの割合を盛り込むよう提案するが、

**町長** 生ごみは土壌還元が基本で、ごみ処理機購入への補助などを推進している。しかし大きく中型の処理機は、設置場所や管理の問題で検討していない。

ごみ処理費用の負担割合の意見は参考にする。

**問** 上伊那広域で検討中の新ごみ処理施設の中間報告を読んだ。鉄格子の上でごみを燃やすこれまでの方式ではなく、高温でごみをガスにして燃やす溶融炉に決まったようだ。しかし、選定に用いた採点基準が不自然で、最初から溶融炉ありきだったのではないか。

全国では、高価な溶融炉ではなく従来型を選ぶ自治体が多い。特に下伊那は、これまで溶融炉だったが、高温を保つのに燃料が高つくなどの理由で、次は溶融炉をやめるそうだ。しかし、上伊那の



溶融方式の桐林クリーンセンター(飯田市)

中間報告はこの判断を参考にしていない。

町は報告書を精査したのか。

**町長** 専門家も交えて検討した結果、溶融方式で行くと決まった。町はこれをチェックして変えていく立場を取れないが、一番効率の良い方法を確認しながら進めていく。

**問** 広域連合などが非効率で高額な投資をすれば、将来にわたって町の財政を圧迫するが見通しは。

**町長** 実質公債費比率は国の指導を受ける18%以下の16%程度に収まる見込みだ。

質問  
介護保険の財源  
見通しは

**問** 第5期の介護保険制度が始まった。保険料は、発足当初の月額2900円から5000円まで上がり続け、一方でサービスは切り詰められてきている。最近の状況や打開策は。

**町長** 町内の要介護認定者数は491人で、重度の割合も3割以上に増えている。施設での介護希望も多い。家庭での支えあいや介護予防の取り組みを進めていく。

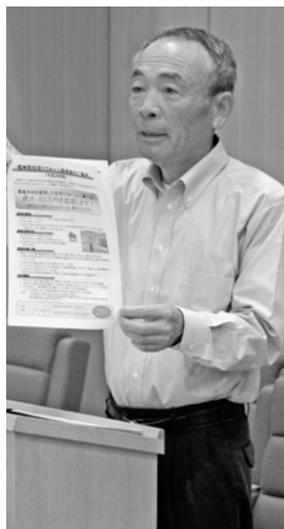
**問** 健康維持は個人の努力が基本だが、高齢化は社会現象の大きな流れである。

しかし、基礎自治体の努力には限界がある。県の安定化基金の全額活用や国の負担割合の増を求めるが。

**町長** 財源強化は全国町村会などで国に要望している。

**質問**  
小中学生対象にインフル  
エンザ予防接種補助を

**答 弁**  
受験期を控えた中学3年生は  
今後検討



竹沢 秀幸

**問** この冬、町内でインフルエンザが流行し、学級閉鎖などがあった。小中学生対象にインフルエンザ予防接種補助を行うべきだが、**教育長** 全員は無理だが、受験期を控えた中学3年生は、今後検討していきたい。

**質問**  
マレットゴルフで  
町を元気に

**問** マレットゴルフで交流のある市町村と災害防災協定の締結を。



マレットゴルフを楽しむ

**町長** マレットゴルフ交流市町村に限らず、いくつかの腹案をもっている。時間をもらいたい。

**問** 子どもたちを対象にマレットゴルフのクラブを組織し、親と子の絆で底辺の拡大を。**教育長** 少子化で町内の少年スポーツ団体は、いずれも団員確保に悩んでおり、マレットのクラブをつくるのは難しい。

**質問**  
住宅リフォーム  
補助継続を

**問** 住宅リフォーム支援補助金制度の事業効果は非常に大きい。住宅リフォームや下水道の繋ぎ込みの推進、さらにブロック塀の耐震化まで事業の補助対象としている制度である。

**費用が町の中で還流することによる経済効果、また受注業者の業務拡大という効果がある。25年度以降も継続をすべきだが。**

**町長** 昨年度73件で470万円余を交付。工事費約1億3000万円、建設業者の受注増加につながった。25年度以降は慎重に検討したい。



砂沈殿槽

**質問**  
各保育園に  
ミニ水力発電を

**問** 各保育園の近くに水車によるミニ水力発電の設置を提案するが、**教育長** 発達段階に応じた活動や体験を通じた学びが最も効果的であると思う。条件がそろえば、地域協働としての事業も視野に入れながら検討していきたい。



水力発電機

**質問**  
町内で  
花の需要拡大を

**問** 家庭内で花をプレゼントし合う「家族の絆フラワーデイ事業」を提案する。併せて、花のポイントカードを作り、今年度検討中のJAと商工会共通の商品券に交換できるようにしては。**町長** 関係機関と協議しながら検討していきたい。

質問

「脱原発をめざす首長会議」に町長も参加すべきでは

答弁

「全国町村会」と重複参加する気持ちはない



坂本 紀子

問 世界が日本の動向に注目する中、大飯原子力発電所が再稼働されそうだ。

町長は放射能の人体や環境への危険性を、どのように考えているか。

町長 福島は今も警戒区域20km以内は人が住めない。動植物全体・生活環境・自然環境への影響、危険性は計り知れない。特に、病人・高齢者・子どもたちを考えると、危険極まり

ない憂慮すべきことである。

問 国は2030年までに脱原発の方向だが、時間がかかりすぎる。

「脱原発をめざす首長会議」に参加し、国に強く働きかけるべきでは。

町長 原子力発電は国の総合的なエネルギー政策の中で、安全性を確保し対応していくべき。原子力に頼らない自然再生可能なエネルギーへの転換が何とし

ても必要。原子力発電はできるだけ早い時期に全廃していくことが望ましい。

この首長会議の趣旨は全国町村会の特別決議とほぼ同じ。決議を政府・関係機関へ要請している。重複して会議に参加する気持ちはない。

問 エネルギーの変換率が太陽光発電の2倍

以上という太陽光給湯システム設置への補助をすべきでは。

町長 前向きに検討したい。

質問  
職員採用の手順は

問 職員採用はどのような手順で行われるのか。

町長 正規職員は113人で平均年齢41・1

歳。一般事務職の35歳以下が少ないので、募集年齢を35歳まで引き上げている。

1次試験で教養・論文・適性検査。平成22年度からは集団面接を2次試験に新たに加えた。その際、課長・係長・一般職員により、リーダーシップ・協同性・論理性などをみる。3次試験で個別面接をし決定している。

副町長 初級試験は高

卒が中心で、中級試験は4大卒も含まれる。

今年の中級試験が各市町村統一で7月22日に行う。初級の試験は9月になる。

地元採用を中心に、県外からの応募もできる。採用が決まれば、町内に住所を置くことを条件としている。

応募は採用予定数の数倍はあり、インターネットの応募も増えている。

問 嘱託職員の雇用形態は。嘱託から正規職員になれるのか。

副町長 特定の業務を頼んでいる。毎日勤めて月額報酬。雇用条件は契約の中で説明し、納得してもらい、1年契約を更新している。嘱託職員が正規職員の採用試験を受けてなる場合はある。

質問  
旧保健センターの活用は

問 活用の検討状況は。

町長 障がい者プラン策定作業でアンケート調査をしたが、年齢や障がいの種類の差などにより意見がまとまっていない。

旧保健センターは建設から36年たつので、耐震診断なども調査に加えている。旧母子センターなどを解体した後の敷地も含めて、障がい者福祉施設として整備していきたい。



みんなの声を届けよう(代々木公園)

質問  
救急医療情報キットに  
外出用の「緊急安心カード」を

併答  
町ホームページに  
書式を掲載したい



倉田 晋司

問 救急医療情報キットは冷蔵庫内に置くこととなっている。外出中に万一の緊急事態が起こり得ることを想定した時、携帯用の「緊急安心カード」が必要になる。

名刺大のカードにキットと同じ内容を記載し、財布に入れて活用できるもの。その書式を町のホームページに掲載し、希望者は利用できるようにすることを提案するが。

町長 常在在宅とは限らずもつともだ。こうした面も弾力的に取り組んでいく。

住民福祉課長 キットと同様、安全安心のまちづくりのアイテムとして有効と考える。

消防本部と協議し、町のホームページに掲載することを前提に検討する。

質問  
自殺予防対策の  
取り組みは

問 全国の自殺者は、14年連続で3万人を超えた。飯島町を含む上伊那の自殺率は長野県や全国平均より高い。

国の自殺対策緊急強化事業で、町は数々の取り組みを行っている。町の実態を公表し、さらなる普及啓発の継続が必要では。

町長 深刻化する自殺問題の取り組みは4年目となる。大切な命を守る啓発活動の継続は重要だ。町の実人数の報告の是非を含め、内容を精査し、できるだけ状況を公開したい。

問 自殺ハイリスク者の早期発見や自殺発生回避は自治体の責務であり、町役場は町民の命を守る最前線の活動拠点だ。訪れた人の悩みに気付く、適切な相談窓口につなぐゲートキーパーと位置づけ、人

材育成を図ることが重要では。

町長 窓口対応の職員が自殺予防のゲートキーパーの役割を担うことは重要だ。メンタルヘルス研修を行っている。コミュニケーション技術や有益な内容など有益な内容だ。職員の力量をつけるためさらなる研鑽を継続したい。

問 うつ病は自殺の大きな要因だ。携帯電話やパソコンで手軽に心の健康をチェックでき



「こころの体温計」の画面

る「こころの体温計」がある。自己診断の結果から相談窓口の紹介を行い、早期発見・早期受診で予防につながることから、導入する自治体が増えているが町の考えは。

町長 自殺対策事業は国の補助制度で、町の実情に合わせて取り組んできたので、さらに充実・継続をしたい。「こころの体温計」は

次のステップの課題としたい。

問 本年度の新規施策に高齢者などへの「救急医療情報キット」の支給がある。安全安心のため期待する人が多いと思うが、希望者の数と配布に向けた手順は。

問 今回支給対象とならなかつた人の中にも支給希望がある。「キット支給実施要綱」を弾力的に運用し、要望に応えるべきだが。

町長 実態把握の中で弾力的に対応したい。

住民福祉課長 自治会の中には、実費でもほしいという問い合わせもあり、非常に理解できず。希望者に実費で配布することを基本的に手続きの検討をしている。

町長 支給対象者のうち331人から希望が出された。キットの発注をかけ、シールのデザインなど検討し7月初旬には納品となる。各家庭へ順次配布を進めていく。

質問  
社会福祉  
有資格者の配置を

答弁  
来年度は資格者採用を予定



三浦 寿美子

**問** 平成22年3月定例会で、社会福祉のプロを育成するよう努めるとの答弁があった。現状はどうか。

**町長** 地域福祉係に4人配置。障がい者福祉の業務担当者は社会福祉士の有資格者である。基礎的な知識を深めるため、県の開催する各種の研修会にできる限り参加している。

**問** 研修には、障がい者と一緒に過ごすなどの体験が欠かせないと

**考える。どのような研修を行っているのか。**

**住民福祉課長** 障がい者の相談支援・障がい者の程度区分認定などの研修や障がい福祉事務担当者の基礎研修に参加している。

**町長** 今後も基礎知識や具体的な教養を高める研修に参加していく予定。

**問** 障がい者の気持ちに寄り添うことのできる職員を育てるため、町内外の福祉施設などでの研修が必須と考え

るが。

**町長** 特に現場への身をもった体験は、身近で具体的な相談にも対応できる利点がある。人事面で検討していきたい。

**問** 保護者から、社会福祉士の配置を求める声がある。専任で1人いるが、多忙で個人個人の対応はできないのではないか。

**障がい者にやさしいまちづくりを進めるため、有資格者の配置をすべきではないか。**

**町長** 幅広い知識を持った職員を育てるため、定期的な人事異動も必要。来年度4月採用では、社会福祉士の資格者の採用も予定している。

質問  
バイパス開通後  
どうなる通園バス



**問** バイパス開通後「通園はどうなるのか」との声を聞く。

**保育園の統合の際に、バイパス開通後は通園バスは廃止すると覚書がある。**

**対象となる園児の保護者は当時関わっていない。生活環境、子育て環境の変化もあり、保護者の認識にずれが生まれていないか。**

**問** 間近になってトラブルにならないよう対策を検討しているか。

**教育長** 賛否両論あったが総合的に判断し、平成18年度末に田切区・本郷区と覚書を交わした。来年3月廃止の予定である。

**問** 今年度の東部保育園入園式の際に、経過と今後の方向を説明した。入園説明会の時に、また説明をしたい。

**問** 保護者の目、保育

者の目、それぞれの立場でしっかり意見交換をし、納得のいく通園方法を再検討したほうが良いのではないかと、

**教育長** 一つ目には、約束に従うことは社会の決まりである。2つ目には、保護者の送迎が担任との情報交換の機会となるが、通園バスではできないと思っている。

**個々の特殊なケースは入園の説明会の時に聞いて対応したい。**

質問  
乳幼児のワクチン  
接種に補助を

**問** 乳幼児のロタウイルス・B型肝炎・おたふくかぜ・水痘の各ワクチンの問い合わせが増えていると聞く。背景と実状は。

**また、接種に高額な費用がかかる。子育て支援として補助を検討してはどうか。**

**町長** 4つとも任意の予防接種である。B型肝炎・おたふくかぜ・水痘は平成25年度の定期接種化の検討対象。厚生科学審議会での実施に向けた検討をしている。ロタウイルスは24年度を目的に医学的・科学的な評価が行われる。

**町** 町としては、定期予防接種を安全に実施することを最重要事項としている。補助は今すぐにはできない。検討課題としたい。

# 被災地の今く栄村く

## 社会文教委員会

6月26日

### 栄村を訪問

3・11東北大震災の悲報が伝えられた翌日、  
(突然わが身に栄村の人々は大地震に襲われました。

震災直後、町は義援金を持参しました。

当時、被災地の現状を目の当たりにした松下議長の説明を聞きながら、被災地の復興の様子を視察するため栄村を訪れました。

国道117号を進み飯山市を経て栄村に入ると、いたるところで補修工事が行われていました。

役場は建物被害としては少なく、周りが地盤沈下していたものが全て復旧され、防災掘



栄村役場 全国からの励まし

点としての役割を果たしていました。

一歩中に入ると、ロビーに全国からの励ましの寄せ書きが展示されていました。

### 青倉地区と

### 「マトの国」

特に公民館など建物被害が大きかった青倉地区へ。

全体を見渡せる高台



最初に復興青倉地区公民館

に登ると、最初に地区のよりどころとして復旧した公民館が見えました。復旧中の建物もあるが、新しい屋根が光っていました。

町の振興宿泊施設「マトの国」も営業を再開していました。しかし、その脇では、上流の山津波の復旧工事が続いています。

### 横倉地区と栄小学校・仮設住宅

横倉も被害の大きかった地区です。

栄小学校では体育館の復旧工事が行われて



復旧工事が続く体育館

いて、一方では屋外運動場で子どもたちが元気にサッカーをしています。その隣の仮設住宅は、いまだに全戸が使用されていません。

被災後1年3カ月、訪れた村は一応の平穏さを取り戻してました。道の駅や宿泊施設などの営業も始まっており、時たま昼食に入った食堂も満杯の盛況でした。しかし、いたる所で重機が動き災害復旧工事が行われ、多くの皆さんが仮設住宅での生活を余儀なくされています。

豪雪地帯のため、雪解けとともに農地の被害もようやくその実態が現われ、多くが復旧を待っている状況です。

一刻も早い災害の復旧と、安全安心な地域の復興を願わずにはいられません。

同時に、我が身を振り返り、有事に際する減災の備えの大切さを改めて感じ村を後にしました。

### 信州すざか 農業小学校

翌27日「食育」と「農業小学校」を視察研修するため、須坂市教育委員会を訪問しました。農業小学校は現市長の肝いりで、子どもたちに農業・自然体験を通して、命の大切さや故郷の良さを再発見してもらおうと平成17年に開校しました。

豊丘地区農家のボランティアと、子ども課の熱意で運営されています。毎年50人超の小学生在入学し、冬を除く隔週土曜日に開校されています。

食育は体系的に整備されており、横の連携が大切であると感じ、研修を終えました。

### 栄村大震災

3月12日午前3時59分震度6強  
人的被害 災害関連死 3人  
負傷者 10人  
住家の被害 688世帯  
(秋山郷を除く93%が被災)

# 臨時議会 7月11日開催

## 平成24年度一般会計補正予算

全員一致で可決

緊急防災減災事業債を活用  
公共施設への非常用発電機と  
地域への防災機材の設置へ

補正総額

1億1730万円

計43億5726万円

主な収入源

●町債

1億1730万円

なお、防災行政無線のデジタル化の起債も、本事業債に組み替えた。

主な使い道

★防災資機材の整備

5600万円

各耕地・自治会に発電機付き照明と防災備蓄倉庫を設置するもの。  
★公共6施設に非常用電源を設置  
工事費

5130万円

- ・石楠花苑
- ・3つの保育園
- ・田切体育館
- ・海洋センター



審査内容

発電機の維持管理費は地元負担となる。整備中の防災無線も、雨などの悪条件の時に難聴地帯を調査する。

総務産業委員会

田切地区に地域活性化の拠点を

陳情 町へ

採択  
飯島町四区連絡協議会からの陳情

賛成5 反対0

陳情の内容

田切地区に、多くの人の参加で農業所得確保と生きがい作りの場となる道の駅など地域活性化拠点施設を設置するため、町の支援を求めるもの。

審査での意見

賛成 四区の総意と受け止める。地元のアンケート調査では、7割を超える希望があった。農水大臣賞受賞の農業組織など、地域ぐるみの取り組み実績があ



候補地の南割交差点付近

陳情の内容

消火栓設置場所の多くに照明が無いので、夜間の緊急対応が困難。照明設備の設置を要望するもの。

審査での意見

賛成 消火栓は地元密着の防災設備なので、照明設備は全区で実施すべき。  
以前とは街並みも変化し、消火栓の設置位置の見直しも必要。

委員会報告は本会議で  
全員一致で採択された

# 町民の声を 議会へ

このページは町民の皆さんに取材協力願ひ、町政や議会への意見や感想を掲載しています。今回は読み聞かせボランティア「おはなしだいすき」の澤井敦子さんに登場いただきます。

## 「おはなしだいすき」の活動は

小学校で読み聞かせを始めて10年になります。人に何かをしてもらう時間は幸せな気持ちになり、心がおだやかになります。読んでもらう間は絵を見たり、場面を想像しながら物語に耳を傾けます。

現実を離れ物語に耳



お話に夢中です

を委ねるのは、子どもはもちろん大人にとつても、とても心地よいものと思われれます。

「今日は何の本？」と楽しみにしてくれている子どもたち、ボランティアを暖かく受け入れてくださる小学生の存在が私たちの活動エネルギー源です。

ところで、私たちは本や雑誌は声を出さ

ずに読みますが、明治のころには声に出して読んでいました。家庭や電車などの車内、人が集まる所でも音読する声、話し合う声があふれて、声によるコミュニケーションは日常的でした。その後、時代の変化の中で活字は黙読されるようになり、第二次世界大戦後は児童文学も声と別れてい

きます。そして今、私たちは活字とも離れたつあります。

4月から「飯島町子ども読書活動推進計画」による取り組みが始まりました。子どもたちには自分で読む楽しさに気付き、本との関わりを深めるとともに、声によつて読み手と聞き手が物語を共有する体験もたつぷり味わつてほしいと思ひます。

## 議会だよりを読んでの感想は

議員の皆さんの活動の様子や考えが伝わり、関心を持つて読んでいます。町議会では、私たちがとつて身近な問題を、私たちの代表として考えていただいています。

より多くの町民の声を拾い上げ、生活しやすい町づくりを生かされることを期待しています。

## 編集後記

7月2・3日に、議会編集委員会は石川県津幡町と志賀町を訪問。議会報の研修を行った。

両議会とも全国コンクールで毎年受賞し、全国トップレベルの議会報を発行している。住民にわかりやすく読みやすいという点は、我々の議会だよりも見習うところだ。ただし、議員の関与・思入れは我々も負けてはいない。

飯島町では望めないが、両町は事務局が、かなり手助けをしている。

技術面などの指摘や指導を受けてきたので、今後生かしていきたい。

両議会に感謝する。(巖)

### 編集委員会

委員長 久保島 巖  
副委員長 中村 明美  
委員 宮下 寿  
員 浜田 稔

北沢 正文  
坂本 紀子